

### 第三期叡王戦決勝

榛葉純

一字駒ひたと並べた盤上の舞台は彼らがためにあるのだ

あかねさす羽織の裏をしずめつつ君は気高く歩を突き出した

重圧に耐えかねた？ いや逆らわず脇息に身を預け高みへ

あこがれと野心をこめて選びとる格調高い一手をいつも

局面の劣勢・孤独・プレッシャー　チェスクロ横目にひとつうなづく

ひたひたと手のないほうへ追い詰めたつもりが眠れる角に刺されて

濁流のごとき時間に操られ妖しい手に導かれるままに

あいさつはいつも深々　最後まで誰にも見せぬ旗印負い

師の期待さわやかなまで抜き去った青年しかと冠かかえ

注がれるビールに今は繋がれて盤前でまた会えますように